



慶長遣欧使節の偉業を未来へ 引き継ぐために

宮城県知事 村井 嘉浩



仙台藩主・伊達政宗の命を受けた支倉常長ら慶長遣欧使節が、1613年に石巻月浦を出帆してから400年を迎えました。1611年に地震による大津波が発生し、仙台藩は大きな被害を受けましたが、そのわずか2年後に大海原へ向けて旅立った先人達の勇気と雄大な志をしっかりと受け継ぎ、東日本大震災からの復旧・復興に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

この400年の節目を機に、慶長遣欧使節の偉業を再認識し、未来へ引き継いでいくため、県などで構成する関係団体が連携・協力して「慶長遣欧使節出帆400年記念事業」を実施しておりますが、様々な事業を通じて、多くの方々、特に若い世代の方々に慶長遣欧使節についての理解を深めていただくとともに、慶長遣欧使節ハバナ寄港400年を迎える今年7月23日を新たなきっかけとして、両国の友好関係をさらに深めてまいりたいと考えております。

また、東日本大震災では、宮城県慶長使節団船ミュージアムや復元船「サン・ファン・パウティスタ」も大きな被害を受けましたが、復旧も完了し、以前の勇姿を取り戻すことができました。復旧に当たりましては多くの皆様から多大なる御支援・御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

今後も、郷土の誇りである慶長遣欧使節の業績を国内外へ、そして未来へ伝えてまいりたいと考えておりますので、皆様方のより一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。